

7 「報・連・相」はなぜ大切か

学習の
ポイント

- 上司とのコミュニケーションを深めることで、一人前の技術者となる。
- 他部門の人たちと積極的につきあうことで、人間の視野を広げる。
- コミュニケーションにも「報・連・相」が効果的である。

上司とのつきあい方

上司は、仕事の指示を出したり、その結果の報告を聞くという立場だけでなく、あなたが一人前の企業人なり技術者なりになるためのトレーナーでもあるのです。

ですから、上司とのコミュニケーションを深め、仕事の進め方や問題解決の仕方などをできるだけ早く吸収して、1日も早く一人前の技術者として、仕事に取り組めるようになりたいものです。

(1) まねる段階

経験の浅い段階では、仕事の内容や進め方などをどんどん聞いて、少しでも多くのことを吸収するようにしましょう。上司や先輩は、現在の仕事については長い経験を持ち、多くのノウハウを持っているので、それを効率的に吸収していく心構えが必要です。

(2) 応用する段階

ある程度の経験を積んできたら、従来の仕事の進め方や問題の解決の仕方に、自分なりの工夫や技術、知識を加えていきます。つまり、まねる段階で得られた基礎力を応用して、レベル・アップするという考え方は、もちろん、すぐに成功するわけではありませんが、失敗したとしても、原因をよく考えて、次回にはさらに効果的な方法を検討する、という前向きな発想が大切です。

(3) 創造する段階

さらに経験を積んだら、自分が指導的な立場となります。仕事の進め方や問題解決の方法に、自分なりのオリジナリティを活かした斬新な方法を創出して、会社の共通の技術的財産として活用されるようになりたいものです。

他部門の人とのつきあい方

自部門の人たちとのコミュニケーションは大切ですが、そればかりでは企業人としての視野が狭くなりがちです。会社全体の動きや考え方や、または専門外の分野のことを深く知ろうとすれば、なるべく多くの他部門の人たちとつきあうことが大切です。他部門の人たちの、仕事に対する考え方や進め方を吸収することで、自分の視野が広く深くなり、日常の仕事で課題が発生しても、いろいろな視点から最適な対策を検討することができるようになります。

しかし、他部門の人たちとは、つきあうチャンスがあまりないのが普通です。まずは、つきあう機会をなるべく多くつくるように努力すべきでしょう。必ずしも、仕事上のつきあいばかりでなく、会社のレクリエーション行事や会社外でのプライベートなつきあいでもよいので、年代や部門にこだわることなく、広い範囲の人たちと仲間になりたいものです。

